

実りの秋到来

自慢の特産品が集合

10月2日、第35回産業まつりが役場前駐車場にて開催され、町内の事業者や農漁業者などが、地場産の野菜や旬の果物、鮮魚といった様々な特産品を販売し、それらを買求める来場者で賑わいました。

なかでも特産品のタイムセールでは、開始30分以上前から長い列ができるほど大盛況で、特に町内の若手農業者が生産したお米「ふっくりんこ」と「ななつぼし」はあつという間に完売してしまうほどの人気でした。

このほかにも水産物の模擬競りや上ノ国中学校吹奏楽部による演奏、恒例の鮭のつかみ取りなどの催しが会場を盛り上げ、産業まつりは活気であふれていました。



健康な老後のコツ

介護予防知識楽しく学ぶ

10月20日、適切な介護予防知識を楽しく学び、健康寿命を延ばすことを目的とした『介護予防まつり』が健康づくりセンターで開催され、111名が参加しました。

会場では、笑いと運動の重要性を体験できる体操コーナーや生活改善協議会による食事改善コーナー、口や顔の筋肉をゲーム形式で鍛えるコーナーなど、楽しい趣向が凝らされた催しが多数用意され、参加者は自身が興味のあるコーナーに足を運び、遊びを介して介護予防知識を学んでいました。参加された方々は、『毎年内容が変わって素晴らしい』『新鮮で楽しいです』と、多くの方に喜ばれるおまつりとなったようです。



創って残さず、豊かな森

10月7日、地域の植生を活かした「豊かな海づくりのための植樹祭」が上ノ国町日本海グリーンベルト構想推進協議会主催（花田英一会長）のもと開催され、参加者約150名がカシワやミズナラの苗木1000本を植樹しました。今年の植樹祭は、会場を大安地区海沿いの高台に移し、地域に適した昔ながらの植生を活かして海岸線付近の森林帯『グリーンベルト』を再生させることを目的に行われました。

参加者は、ここで育った木の落ち葉の栄養が海に流れ出ることで、将来磯焼け問題の解消に繋がることを期待し、未来の上ノ国に豊かな海と森を残せるよう、苗一つひとつを大事に植えていました。



豊作のお米

児童たちが「食」で社会学習

10月4日と6日の2日間にわたり、上ノ国小学校の5・6年生55名が自分達で植えたお米を収穫し、例年まれに見る大豊作となりました。

これは、食をテーマにした社会学習の一環で行われており、苗の成長を目にした児童たちは、台風にも負けない逞しさに驚きながらも、鎌を片手に約2時間に渡って収穫を行いました。

この日は水田を提供した菊池和雄さん（字北村）と鈴木亨さん（字新村）も現地で指導したほか、今年98歳を迎えた菊池イクさんや83歳になる鈴木順子さんが稲の縛り方などを実演するなど、世代を超えた交流の側面もあったようです。収穫したお米は、学習の一環として、児童達が使った話を話合っして決めるそうで、食べ物生産と消費を学ぶ経験を得るとともに、これからも学んでいく貴重な機会となったようです。

